

「橋下市長、維新のやり方に恐怖を覚えませんか？」

平成 27 年 11 月 3 日

●うさぎさんからの質問

橋下市長、維新のやり方に恐怖を覚えませんか？

●うさぎさんからの質問

橋下大阪維新の BPO 申し立ては、異常だと、思いませんか？

●西田昌司の答え

大阪維新の会の BPO 申し立てについては、私は藤井先生から直接聞いてびっくりしましたが、「権力をとるためには手段を選ばない」という大阪維新の本質、橋下さんの本質がよく現れた一件だと思えます。

大阪維新が、ABC 朝日放送の番組にレギュラーコメンテーターとして出演する藤井先生に対して、「特定の候補者や特定の政治団体を不利にすることを目的としてテレビ番組を利用しようとする意図を明確に持つ者を、テレビ番組のレギュラーコメンテーターとして起用し続けることは、放送法 4 条に明確に違反する」といった論法で放送倫理・番組向上機構（BPO）に異議を申し立てました。その結果、藤井先生は番組から降ろされてしまったのですが、この件には私も関わっていきまして、藤井先生にアドバイスをさせていただきました。藤井先生は元々大学の先生で非常にお忙しい方ですし、テレビ出演がなくなったのであればしばらくは休まれたらよいと思うのです。しかし、問題は大阪維新の「目的達成のためには手段を選ばない」全体主義的な体質であり、そこに私は危惧の念を抱いています。

大阪維新は、藤井先生が自民党推薦のダブル候補者に送ったとされるメールの内容を何らかの方法で入手し、その私信について騒ぎ立てているのですが、そもそも何故私信が公にされているのでしょうか？公権力である大阪維新が、検閲を行って『通信の秘密』を侵害し、藤井先生という個人のプライバシーを侵して内心の自由を奪おうというのですから、本来であればこのような大スキャンダルはメディアが大々的に取り上げてしかるべきですが、大方のメディアはこれに目をつぶってしまい、ABC朝日放送も権力に屈して藤井先生を番組から降ろしてしまったのは非常に情けなく思います。

最近、橋下さんはツイッターに「維新の党を解党し、残ったお金は国庫に返納する」と書き込みました。しかし、今年5月に行われた都構想の住民投票の際に橋下さんらは、テレビCMや新聞折り込みチラシなどの広報費として大手広告代理店に5億円分もの発注をしています。広告代理店には未だに5億円が払われていないのですが、もし5億円を維新の党の政党助成金から返済するとなれば、6億円ある政党助成金（維新の党の2015年の政党助成金は26億6千万円。政党助成金は4月、7月、10月、12月の年4回に分けて交付され、10月分は6億円）から5億円を抜き取って残りの1億円だけを国庫に返納するという話になってしまいます。橋下さんは「お金は全て国に返す」というクリーンなイメージを作り出すよう計算した上で書き込んでいるのですが、ここでも彼の詐欺的な手法が見て取れます。

都構想の住民投票の際は、私も都構想を潰すべく何度も大阪に足を運びましたが、自民党の先生方は悲鳴をあげていました。橋下さんらは政党助成金を頼りに5億円ものお金を使って広告をバンバンと打っていましたが、それに対して自民側は少ない予算でのやりくりを余儀なくされていたのです。ところで、政党助成金を都構想の広報費に流用すること自体がおかしな話です。20名以上もの国会議員が所属する維新の党だからこそ政党助成金がもらえるのですし、大阪府議や大阪市議がいくらでももらえません。また、大阪府知事や大阪市長といえどもそんな大金は自由にはなりません。国民の血税が大阪市民だけを対象とした住民投票に流用されるという不条理がまかり通っていたわけです。

4年前の2011年の大阪ダブル選挙で、松井一郎さんは大阪府知事、(大阪府知事であった)橋下さんは大阪市長となりました。その時の市長選で、前大阪市長で都構想に反対であった平松邦夫さんに橋下さんが大差で勝ち、それからの4年間というもの橋下さんや松井さんらはもっぱら都構想実現のための活動をしてきたのですが、今年5月の住民投票で(僅差ではありましたが)住民によって否決されました。この住民投票の選挙戦で橋下さんは「大阪を変えるラストチャンス」というキャッチフレーズを繰り返し、都構想に賛成するよう大阪市民を煽りに煽っていました。ところが住民投票後のわずか3ヶ月後、今回のダブル選挙で都構想に再挑戦すると言い出したのです。

しかし、僅差といえども住民投票で一度否決されたのですし、橋下さん自身も投票前にはツイッターで「政治家が決めることには限界がある」「住民投票で住民に決めてもらう」とつぶやいていたのですから、たった半年前に住民が否決したものをまたぞろ挑戦するなど大阪府民・市民をなぶった話でしかありません。また、この住民投票に限らず、法律の世界では一度決めたことはそれに従うしかないというのは常識です。そもそも都構想は大阪市議会で一度否決されたのですが、それを橋下さんが住民投票に持ち込んだわけで、これは議会制民主主義を否定する暴挙と言わざるを得ません。

橋下さんは権力をとるためには手段を選びませんし、前言を取り消すのも平気ですが、要するに橋下さんはウソつきなのです。しかし、そんな橋下さんが毎日マスコミに登場して彼の発する言葉を浴び続けてしまうと、大阪府民・市民はそのうちにウソに対する感覚が麻痺してしまうのかもしれませんが、橋下さんに対して胡散臭さを感じている方もたくさんいらっしゃいますが、一方で「ただおもしろければいい」というノリで、政治と子供の遊び場の区別のない大衆も残念ながら大量に存在するのです。

私は大阪都構想の対案として「新幹線ネットワークによる近畿メガリジョン構想」を提唱していますが、これを実現するには近畿の首長の理解・協力が是非とも必要です。このような巨大な構想は中央と地方が両輪となって初めて前に進みますが、残念ながら大阪都構想は近畿メガリジョン構想

とは全く相容れない論外な政策です。橋下さんや松井さんはこの4年間というもの（二重行政の解消といった）統治機構を改革することばかりに気を取られてまともな政策が実行されませんでした。一方、今回のダブル選挙の府知事候補である栗原さんと市長候補の柳本さんは近畿メガリージョン構想を公約として掲げられています。まともな政策を実行するためにまともな人が選ばれなければなりません。皆さんには一人でも多くの大阪府民・市民にこのことを伝えてくださいますようお願い申し上げます。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>